



2020. 11. 1.

## 11月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

爽やかな天気の下で年長組「フリージア・パンジーみんな集まれ」を開催したのが10月の初め、なのに同じ月末にはもう寒くて、冬物を出したり灯油を買いに行ったりしています。秋ってこんなに短かいの？春夏秋冬、均等に3か月ずつじゃない？と、ネット検索してみると…、それらしいサイトがたくさんありました。あれこれ読んでみて、比較的納得しやすかったのが「太陽の位置は、地球が周りを廻る（公転）軌道の中心ではなく、ちょっとずれている」というものでした。地球は1年かけて太陽に近づいたり遠ざかったりしている。で、あとの説明は省略しますが、日ごとの季節の移り方は、日本では冬の方が大きく夏の方が小さくなり、冬より夏が長くなる、のだそうです。うーん、何か騙された感じがするけど…。全てを整えてくださる神さま、現在の在りように感謝します、でも出来る事でしたら夏と冬を気持ち短めに、春と秋はその分長めに、何とかならないでしょうか。

さて10月の半ばを過ぎたころから、集団としての子どもたちの様子が変わってきた、と感じています。動きが大きく速くなってきていて、積極的なエネルギーを感じます。数年前にも11月の園だより『色々な場面での動きが大きく滑らかになり、子ども同士が接する機会や場面が増えている』と書いています。このような変化の時期は、特に今年度のスタートは6月でしたから、幼稚園が始まってから6ヶ月経った頃ではなく、暦の10月頃になるのでしょうか。旧約聖書コヘレト3章1節に「何事にも定められた時がある」とありますが、子どもたちが形成する「集団」の成長過程にも、その「時」があるのだと思います。

エネルギーが満ちてきた集団で、子どもは体だけでなく心も活発に動いて友だちと深く接するようになり、楽しい事だけでなく、反発し衝突する事も増えてきます。そして諍いや揉め事は、子どもたちの「根っこ」の成長にとって良い機会になります。大人の感覚で決着を求めるのではなく、他者の思いや気持ちを聞き、自分の思いや気持ちも他者に伝え、互いに理解し寄り添う努力をする、その過程が、他者と良い関係を築いていく力、人間としての「根っこ」を育てていきます。

木々も春に向けて力を蓄える始める時期、子どもたちにも「根っこ」を伸ばす「時」が来ているのだと感じています。

年主題 『こころが満たされる』

<年主題聖句> 「喜びと平和であなたがたを満たす」

(ローマの信徒への手紙 15章 13節)

11月主題 『ありがとう』

<聖句> 「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」

(ヨハネによる福音書 15章 12節)